

## 平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月13日

上場取引所 名

上場会社名 株式会社JBイレブン  
 コード番号 3066 URL <http://www.ib11.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 新美 司  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 亀岡 巧

TEL 052-629-1100

四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	4,562	—	67	—	54	—	8	—
26年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 8百万円 (—%) 26年3月期第3四半期 ー百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
27年3月期第3四半期	円 銭 2.36	円 銭 2.36
26年3月期第3四半期	—	—

(注) 当社は平成27年3月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年3月期第3四半期の数値及び対同年同四半期増減率については記載していません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
27年3月期第3四半期	百万円 4,203	百万円 1,079	% 25.7
26年3月期	—	—	—

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 1,079百万円 26年3月期 ー百万円

(注) 当社は平成27年3月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年3月期の数値は記載していません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
26年3月期	円 銭 —	円 銭 5.00	円 銭 —	円 銭 5.00	円 銭 10.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成26年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。そのため、平成26年3月期の年間配当金は、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しています。

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,162	—	142	—	120	—	42	—	12.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は平成27年3月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前年同四半期増減率は記載していません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	3,508,200 株	26年3月期	— 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	906 株	26年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	3,507,323 株	26年3月期3Q	— 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は平成27年3月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年3月期第3四半期及び26年3月期の数値については記載していません。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P11「当四半期決算に関する定性的情報(1)経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	1
(1) 経営成績に関する説明	1
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	2
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	2
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	2
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	2
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	2
4. 四半期連結財務諸表	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から12月31日までの9か月間）の経済概況は、米国経済の好調さや、円安等を背景とした企業業績の改善が見られる一方で、4月1日の消費税増税による消費の反動減が長引き、景気の減速傾向が現れてきました。また、7月頃より原油価格が急速に値下がりしました。

外食産業全般では、懸念された増税後の冷え込みは見られませんでした。オーバーストアによる企業間競争の激しさは変わらず、加えて原材料価格、エネルギーコスト、パート・アルバイト時給等が高止まりしました。

このような環境下で当社は、10月1日をもって、当社の運営する主要な事業を会社分割（簡易新設分割）により新たに設立する100%出資の子会社「JBレストラン株式会社」および「桶狭間フーズ株式会社」に承継させ、持株会社体制へと移行しました。（なお、これに伴い当第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成していますが、以下記載の前年同期間比につきましては、分割前の当社の前年同期間との比較を、参考として記載しています。）

また当社グループは、当第3四半期連結累計期間に6店舗（東京都2店舗、千葉県1店舗、愛知県1店舗、大阪府1店舗、岡山県1店舗）を新規に出店し、8店舗でリニューアル改装を実施しました。なお、新規出店の内、岡山県に初出店した「ロンフーダイニング」イオンモール岡山店は、同業態初のフードコート型出店となりました。

これらにより、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は81店舗（前年同期比5店舗の増加）となりました。

営業面では、引き続き商品・サービス・設備等の改善を進めると共に、労務管理の徹底に加え、4月1日より限定正社員の制度を導入し女性店長の積極登用をすること等で、営業運営体制の安定化を図りました。これらの結果、既存店売上高は前年同期間比104.0%となりました。

原価面では、豚肉等、多数の食材仕入価格が大幅な高値で推移し、秋口からは精米価格が下落しましたが、売上原価率は前年同期間比で0.5ポイント悪化しました。

以上により、当第3四半期連結累計期間の売上高は、過去最高を更新し4,562百万円（前年同期間比5.6%増加）となりました。

利益面では、既存店売上の伸びもありましたが、原材料費・人件費および新規出店関連費用の負担増加が重く、営業利益67百万円（同24.9%減少）、経常利益54百万円（同31.6%減少）となりました。

また、最終利益は、退店を見込む店舗に対する減損損失16百万円、転貸店舗を売却したことによる固定資産売却損15百万円、および8店舗の改装に伴う固定資産除却損3百万円、以上合計35百万円の特別損失を計上し、法人税、住民税及び事業税26百万円、ならびに法人税等調整額△15百万円を加減した結果、四半期純利益8百万円（同75.0%減少）となりました。

部門別の状況は次のとおりです。

#### （クイックサービス部門）

当部門は、「一刻魁堂」業態および、その派生業態の「一刻魁堂/真一刻」であり、当第3四半期連結累計期間に「一刻魁堂」2店舗（イオンモール木更津店・ポートウォークみなと店）を出店し、「一刻魁堂」6店舗および「一刻魁堂/真一刻」1店舗でリニューアル改装を実施しました。その結果、当期間末の当部門の店舗数は60店舗（前年同期比1店舗の増加）となり、内訳として、「一刻魁堂」58店舗（同1店舗の増加）、「一刻魁堂/真一刻」2店舗（同増減なし）となりました。

商品施策としては、個別商品のバリューアップを図りつつ一部商品で値上げを実施し、「あんかけスパ風まぜそば/台湾ミンチかけ」、「チーズがけ/野菜味噌バターラーメン」等の季節商品も積極的に展開しました。また「一刻魁堂/真一刻」業態は、女性目線を強化したメニューの全面見直しを実施し、主力商品の強化の他、サイドメニューでもチャーハン・サラダの品質向上や品目数の充実を図りました。

以上の結果、当部門の既存店売上高は前年同期間に比して4.4%増加し、客数も2.6%増加しました。また、部門の売上高は3,316百万円となり、前年同期間比2.6%の増加となりました。

#### （カジュアルサービス部門）

当部門は、「ロンフーダイニング」業態であり、当第3四半期連結累計期間中に4店舗（御徒町吉池店・モリタウン昭島店・ららぽーと和泉店・イオンモール岡山店）を新規に出店しましたが、イオンモール岡山店は、新開発のメニュー数等を大幅に絞り込んだフードコート型店舗で出店し、順調な業績で推移しました。また1店舗で、リニューアル改装も実施し、その結果、当期間末の店舗数は21店舗（同4店舗の増加）となりました。

商品面では、「天然紅鮭といくらの白出汁チャーハン」「淡雪あん仕立て/ズワイ蟹と小松菜のあんかけチャーハン」、デザートでは「安納芋のブリュレ&杏仁豆腐」等、季節限定の商品を継続して投入するとともに、合わせてクリスマス期間限定の高単価セットメニュー等も随時展開しました。またサービス面では業態目標数値として「誉められ倍率(客数1万人に対しお客様アンケートへ名指しでお誉めの言葉を頂けた割合)」を設定し、各店が25を目指してサービス力の向上に努めました。

以上の結果、当部門の既存店売上高は前年同期間に比して2.2%増加し、客数も0.9%増加しました。また、部門の売上高は1,181百万円となり、前年同期比15.3%の増加となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は881百万円となりました。

固定資産は3,321百万円となりました。

流動負債は1,514百万円となりました。

固定負債は1,608百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間において、新設分割によりJBレストラン株式会社および桶狭間フーズ株式会社を設立したため、当第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しています。

平成27年3月期の連結業績予想については、当初の予想どおりに推移すると見込んでおり、平成26年11月5日付の「平成27年3月期第2四半期累計期間個別業績予想と実績の差異および通期連結業績予想に関するお知らせ」にて公表しました連結業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結会計期間において、新設分割によりJBレストラン株式会社および桶狭間フーズ株式会社を設立し、完全子会社としました。これに伴い、当第3四半期連結会計期間より当該子会社を連結の範囲に含めています。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更)

不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、退店等の新たな情報の入手に伴い、第1四半期会計期間に店舗の退去時に必要とされる原状回復費用および店舗の使用見込期間に関して見積りの変更を行い、見積りの変更による増加額を変更前の資産除去債務残高に53,026千円加算しています。

なお、当該見積りの変更により、当第3四半期連結累計期間の税金等調整前当期純利益は12,477千円減少しています。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

#### 4. 四半期連結財務諸表

##### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間  
(平成26年12月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	490,341
売掛金	12,373
預入金	127,421
製品	23,124
仕掛品	45,616
原材料及び貯蔵品	26,513
その他	161,289
貸倒引当金	△5,211
流動資産合計	881,468
固定資産	
有形固定資産	
建物（純額）	1,678,708
土地	587,734
その他（純額）	266,087
有形固定資産合計	2,532,530
無形固定資産	29,732
投資その他の資産	
差入保証金	557,805
その他	201,712
投資その他の資産合計	759,517
固定資産合計	3,321,780
資産合計	4,203,249

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間  
(平成26年12月31日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	238,991
1年内返済予定の長期借入金	787,235
1年内償還予定の社債	5,000
未払法人税等	9,627
賞与引当金	12,665
資産除去債務	2,335
その他	458,937
流動負債合計	1,514,793
固定負債	
長期借入金	1,406,648
退職給付に係る負債	26,082
資産除去債務	105,567
その他	70,215
固定負債合計	1,608,512
負債合計	3,123,305
純資産の部	
株主資本	
資本金	661,579
資本剰余金	380,637
利益剰余金	36,267
自己株式	△357
株主資本合計	1,078,127
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	1,194
その他の包括利益累計額合計	1,194
新株予約権	621
純資産合計	1,079,943
負債純資産合計	4,203,249

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	4,562,482
売上原価	1,306,240
売上総利益	3,256,241
販売費及び一般管理費	3,188,479
営業利益	67,761
営業外収益	
受取利息	312
受取配当金	95
賃貸不動産収入	22,437
その他	14,391
営業外収益合計	37,235
営業外費用	
支払利息	16,916
社債利息	178
賃貸不動産費用	23,906
その他	9,765
営業外費用合計	50,766
経常利益	54,231
特別損失	
固定資産売却損	15,279
固定資産除却損	3,019
減損損失	16,858
特別損失合計	35,158
税金等調整前四半期純利益	19,073
法人税、住民税及び事業税	26,101
法人税等調整額	△15,304
法人税等合計	10,796
少数株主損益調整前四半期純利益	8,276
四半期純利益	8,276



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	8,276
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	456
その他の包括利益合計	456
四半期包括利益	8,733
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	8,733
少数株主に係る四半期包括利益	—

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。